

東北大学×日本証券業協会 SDG s シンポジウム

SDG s 達成に向けた取組
大学におけるのステイクホルダーとは？

福田智美 (Tomomi Fukuta)

お茶の水女子大学 ジェンダードイノベーション研究所
ラザード・ジャパン・アセット・マネージメント株式会社

2024年3月18日

本日のミニ・プレゼン

- SDGs達成に向けた取組：(前半)
- 大学の情報開示：統合報告書(後半)

なぜ企業はSDGs/ESGの取り組みが必要か？

企業価値を上げる効果があるから

- ESGの取り組みは①資本コストを下げる効果②成長率を上げる効果、両方の側面を持つ

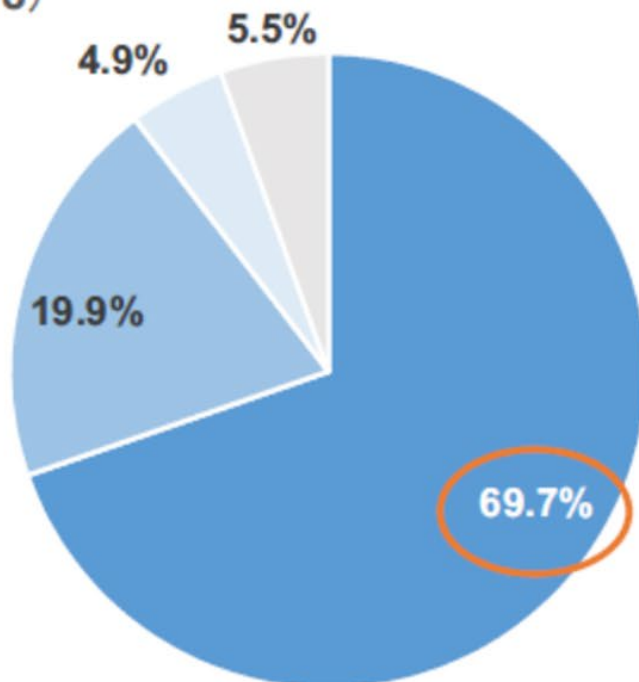


なぜ企業はSDGs/ESGの取り組みが必要か

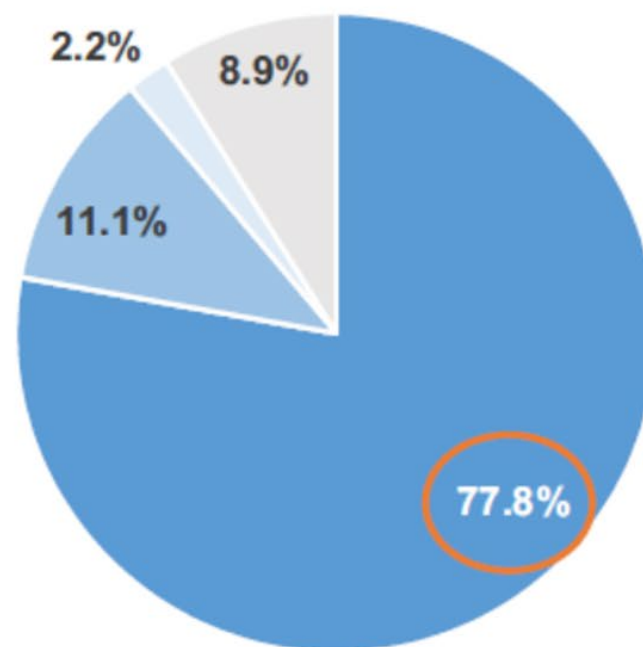
気候変動に対する意識調査(2019)

- 企業も投資家はビジネス機会があるを示しているが、投資家によりビジネス機会を期待している。

企業の回答
(回答数508)



投資家の回答
(回答数90)



- リスクとともに、ビジネス機会がある
- リスクはあるが、ビジネス機会はない
- リスクはないが、ビジネス機会がある
- リスクもないし、ビジネス機会もない

投資家の求めるESGはリスクよりオポチュニティ

どのような効果があるのか？

- 企業開示による資本コストの低減＝情報開示の重要性
- 新しいビジネスを生むオポチュニティの期待と成長

投資家の求めるESGはリスクよりオポチュニティ

どのようなオポチュニティがあるのか？

■ スマートシティの例：三井不動産：柏の葉スマートシティ



大学の情報開示:統合報告書

- ・ステークホルダー
- ・トップメッセージ

ステークホルダーはだれか？

大学のステークホルダー



東北大学はステークホルダーを「多様」としている

ステークホルダーの皆様へ

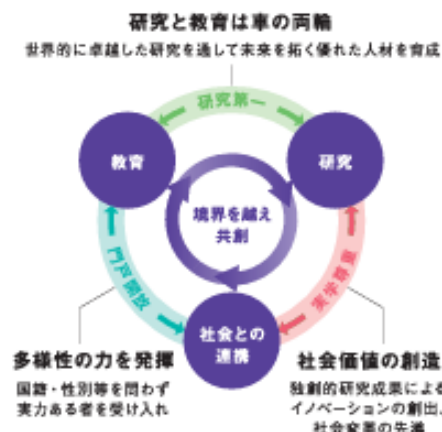
本統合報告書は、財務情報に教育・研究・社会共創・経営の非財務情報を「統合」して、新たな日本の研究大学のあり方に挑戦する東北大学の方向性や社会価値創造を

分かりやすくステークホルダーの皆様にお伝えするものです。本報告書が、皆様との対話に基づく「共創」を深めるきっかけとなれば幸いです。

今後とも、東北大学へのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

建学の理念「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」を基盤に 教育・研究・社会連携の好循環を実現

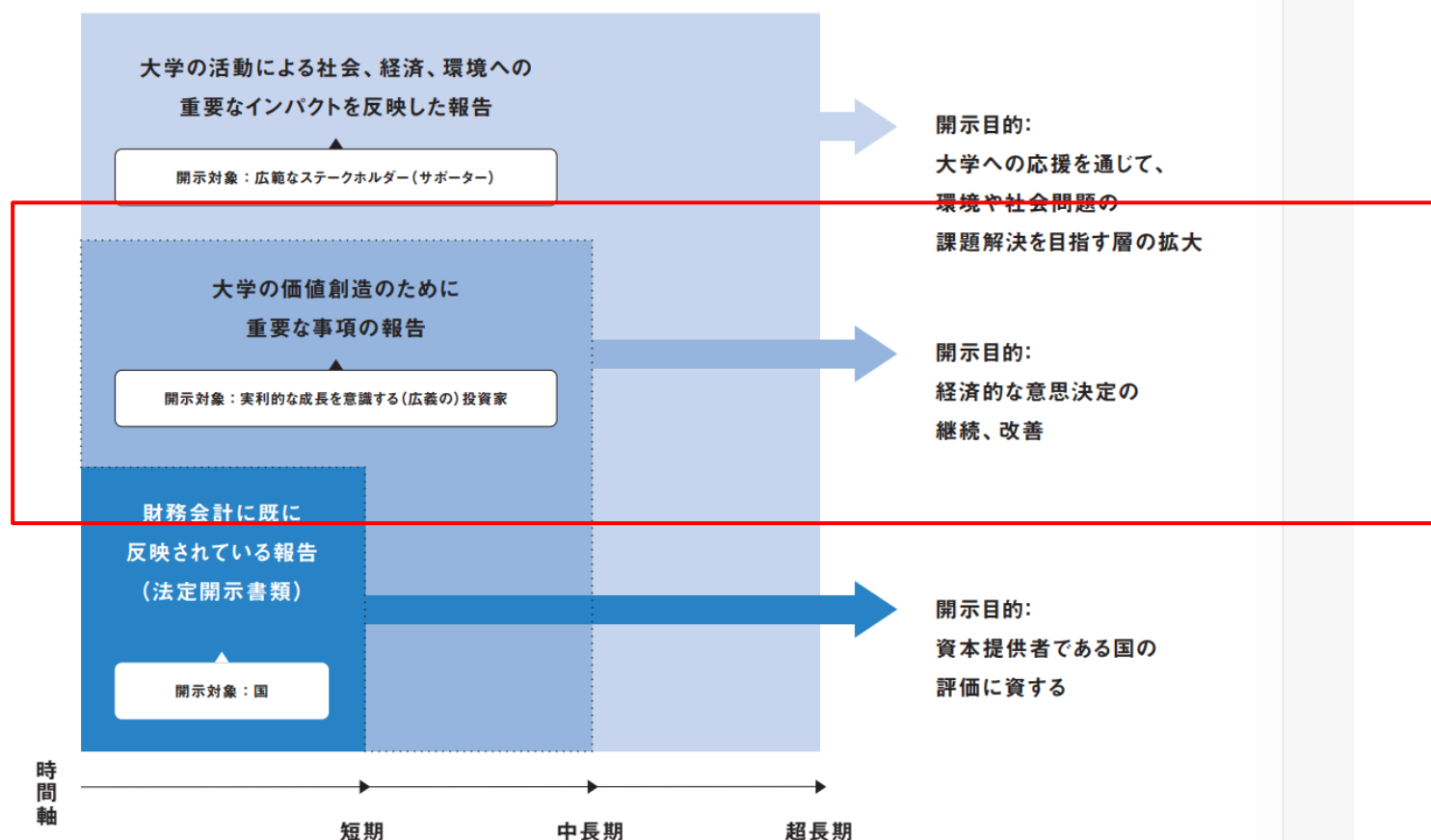
東北大学には「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」という3つの理念があります。これらは、大学における教育・研究・社会連携の諸活動を効果的に連動させる原動力でもあります。第一に「研究第一」は、国際的に卓越した研究成果を生み出しながら、その研究を通して未来を拓く優れた人材を育成することを意味します。第二に「門戸開放」は、国籍・性別を問わず実力ある者を受け入れることで、多様性の力を発揮するとともに才能を伸ばし社会へ送り出すことを意味します。第三の「実学尊重」は、独創的研究成果に基づく社会価値の創造を意味します。この3つの理念による教育・研究・社会連携の好循環が境界を越え共創を生み、東北大学の将来構想の基盤となっています。



東京大学はステークホルダーを明確化

- 時間軸ごとにステークホルダーを明確化し、「受け手が多様であり、総花的」という指摘を回避

大学の視点から捉え直した開示フレームワークの概念図



出所:『Statement of Intent to Work Together Towards Comprehensive Corporate Reporting』(September 2020 CDP, CDSB, GRI, IIRC and SASB)の邦訳を参考に作成

ご清聴ありがとうございました